

## 新年のご挨拶

理事長 小山 眞



あけましておめでとうございます。

皆さんが元気に新年を迎えられましたことを大変嬉しく、お慶び申し上げます。本年は平成から新しい元号に改元される年であります。今年が昨年以上に明るい楽しい年でありますよう、世界においても、私たちの日々の生活の上にも希望に満ちて、願い、努力をして、明るい幸せな良い年になりますよう、お祈り申し上げます。

昨年も一年間通して、利用者の皆さんとスタッフの方々が共に学び向上し、協力し合って社会の一員として、又家族の一人としてレベルアップができたのではと思います。

本年も引きつづき昨年と同様に、旅行にイベントに研修会などできるだけ参加し、日々の健康にもめぐまれて、互いに向上しあって、一年間を過ごしたいですね。

昨年の11月に目標でありました、グループホーム「カサ・セレゾ」が開所いたしました。利用者さんが順次入所して、新しい環境の中で楽しく生活して過ごして下さっていることでしょう。毎日が明るく楽しい日々が過ごせますよう、入所した利用者さんと喜んで頂けるグループホームに!!とスタッフの方々と一層の努力をしてみたいです。つづいて期待におこたえできますよう、二号館・三号館を実現したいと努力をしてみたいです。

本年もスタッフの方々と利用者さんがお互いに協力し助け合って、事業所の運営はもとより、地域社会に役立ち、福祉の向上に努め、世の中のすべての人々が楽しく明るく生活していけるよう、本年も皆様方のご協力をお願い申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

平成31年1月

### 目次

カサ・セレゾ開所	2, 3
施設あれこれ	4, 5, 6
映画「夜明け前」に	7, 8
2018レク報告	9, 10
就職・知っ得情報	11
ありがとうメッセージ他	12
財務報告	別添差込



# カサ・セレゾが開所して

共同生活援助カサ・セレゾ 管理者 野崎 雄 司



平成 30 年 10 月から開所し、早いもので 2 カ月が経ちました。様々な方にご支援を頂いたおかげで開所に至ることができ、感謝申し上げます。

プライムで初めてグループホームを始めることから、そもそもグループホームはどんなものだろう？と自分の中でのグループホームに対するイメージ作りをるところから始めました。数多くある他のグループホームはそれぞれ違い、利用者さんとの関わり方も様々であったため、自分たちに求められ、必要なグループホームはどんなもの

だろうと考えることからスタートしたのを覚えています。しかし、具体的なことは分からないことが多く、すでに実践されている施設にお邪魔させて頂きくことで少しずつイメージを作ることができました。そこで学んだことの一つとして「生活にお邪魔する」という感覚を職員は身に付けていくことが大事であり「人によってはグループホームの他に出去ていく場所（住まい）が無い状況にあることを理解すること」はグループホームの職員をやっていく上で大事にしなければならないものであり、時々振り返り、思い返すようにしています。また、別の法人では自分の在り方が如何に利用者の生活を支えていくことに繋がっていくのかを学び、通所施設とは違う生活の中でのことに対して目を向け、利用者が希望する生活を支えるために自分たちは何を考え、行動していくのが必要かを体感し、貴重な体験を活かし良い支援のできるグループホームを作っていきたいと思いました。



開所してからは手探り状態でいたため日々の出来事に追われてしまい、周りが見えなくなってしまいがちですが、笑顔で力をくれる利用者さんと周囲の方々の温かいご支援と心強い職員がいてくれるおかげで 1 日 1 日を無事に過ごすことができていることに感謝しています。個人的なこととして…カサ・セレゾでは毎日の夕食と平日の朝食を準備していますが、土曜日は私が担当で料理を作るため、利用者さんのお口に合うかドキドキしながら料理しています。上手くいかなかった時には反省しつつ、次に活かせるように腕を磨いています。



グループホームでの関わりを始めて思うこととして、誰しもが元気に日々を過ごしていけるためにも安心できる場所が如何に大事かを改めて考えさせられます。自宅ですっきりと休めていた日と休めなかった時に日中の様子が変わるように、日中どのように過ごすことができたかで帰ってきたときの様子が違い、明日は大丈夫だろうか心配になることもあります。生きていく上では自分の思い通りにいかないことも当然ある訳ですから致し方ないとは思いますが、翌日からまた元気に頑張れるためにも利用者さんにとって安心して帰って来られるグループホームでありたいと思います。

今後も様々な方々にご協力を頂くことは多々あると思いますが、これからもご支援、ご協力を頂ければと思います。

## グループホームとの出会い

カサ・セレゾ 生活支援員・世話人 齊藤 順子



山本さんから「グループホームで食事を作る仕事をしませんか」とお話を頂き、私は料理を作るのは苦にならないので働かせて頂くことになりました。

料理といっても家庭料理で本格的なものは出来ませんが、利用者の方にはなんとか喜んで頂いている様です。

メニューを考えるときに気をつけていることとして、健康のために腸の活性を考え、納豆やヨーグルトを毎朝出していることです。しかし、毎日のメニューを考えることには頭を悩ませます。旬の野菜や魚を多く取り入れたいのですが、値段が高く、手が出ませんが、ご理解のある方々から野菜などを頂き、その分をメニューに上のせしています。ありがとうございます。

今後も衛生面に気をつけ、安心して食事をして頂ける様に勉強させていただきます。



## シンシアの移転

相談支援専門員 山口 良子



優しい雰囲気相談スペース

相談支援事業所シンシアが昨年の11月1日、グループホーム カサ・セレゾの二階の一室に移転しました。以前から引っ越しの話は出ていたものの、日程がなかなか決まらなかったため準備ができない状態でしたが、管理者の飯田さんと10月31日の午後にわずかな荷物を運んだだけで、翌日から何の支障もなく仕事を始められたのは、関係者の方達が地道に様々な準備をしてくれていたおかげと感謝しています。新しいシンシアはこじんまりとしていて日当たりもよく、とっても居心地が 좋습니다。周りにはぎやかな通りなのに、道が一本中に入っているところにあるためびっくりするほど静かです。

そんなシンシアにずっといらればいいのですが、市からの委託事業を受

けるようになり、今までの計画相談の作成の他、一般相談や委託相談が加わり、プライムの利用者の方以外で関わる人が増えました。出かけることも多くなり、二人が一緒にいる時間も少なく、顔を合わせるのが朝と夕方だけということも少なくありません。移転前に比べると忙しくなりましたが、これからもシンシアを意味する誠実さを忘れずに皆さんと関わっていきたくと思っています。



# 岩鼻長寿センター売店について



すまいる柴崎 生活支援員 内山 由美子

すまいる管理者の山本氏より、すまいる柴崎職員に岩鼻長寿センター売店をやってみないかとオファーを頂いたのは昨年初春だった。考えた結果、この話を引き受ける事にし、山本氏に返事をした。さ〜大プロジェクトの始まりです。当初、何も分からない事だらけの私達にアドバイスをし、力になり、協力して頂いた山本氏との二人三脚で売店がスタートしたのは、平成30年7月2日(月)の事だった。

職員もメンバーたちも不安だらけでしたが、その不安を取り除いてくれたのが長寿センターを利用しているお年寄りの皆さんでした。『良かった〜売店がないと不便だったよ』、『うどんだけでなく蕎麦はないのかい?』、『うどんが固いから少し柔らかくしてくれ』、『幕の内弁当美味よ』、『今日も頑張ってるね』など、お年寄りからのいろいろな声を聞く事により皆夢中になり、うどん作り、レジ打ちも間違わないよう個々に努力をし不安を解消していった。中には『あんたうちの孫に似てるよ、名前は何て言うんだい』と言う方もいたり、『立ちっぱなしだと疲れるから風呂に入りな』と言うお年寄りもいて心が和み、次第に緊張感も取れ、メンバーもお年寄りと仲良く話をする様子が見受けられるようになった。

メンバーの1人は、長寿センター売店が始まる事でワクワクしたと話す。新しい事を始めるのは楽しいし、お年寄りからエネルギーを貰えるとも話していた。だが当初はなかなかうどん作りが難しく上手に作れず、まごまごする様子も見られたが今では、一人で何でも何食でも作れる様になっている。この事が自信に繋がり、レジに立てばお年寄りときさくに楽しく話している姿も見られる。

そして別のメンバーは、当初からレジ打ちが抜群に上手く、ビックリさせられた。お年寄りとの会話のやり取りも上手で、『頑張ってるね』と言われると、『ハイ』と答え、いつもニコニコ微笑んで対応している。その姿は素晴らしいですし、また自然と出来るしぐさは、その人の特技ですかね。

ともあれ、こうして岩鼻長寿センター売店の幕開けとなった。

現在では、すまいる京目の人達が来てくれるおかげで売店も賑やかになり、お年寄り達もみかんや煎餅など『あげるよ』と、物をくれる方も多くなってきた。自然と私達も笑顔で貰うようになり、お年寄りとメンバーとのやり取りを見ていると何だかうれしい気分になる今日この頃です。

皆様に感謝しつつ、しばらくはこのまま現状維持して行きたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

## メニュー



すまいるの幕の内弁当・ピクルスのサンドイッチ・おまんじゅう・袋菓子牛乳や飲み物等を販売中

## さーくるの日常

さーくる 生活支援員 松本 和子

さーくるが開所して早4年が経とうとしています。この4年で利用者さんの顔ぶれも作業内容も少しずつ変わってきました。

さーくるの作業の中で請負部門よりも工賃が高く、立ち作業や移動などがあり負荷がかかる作業に取り組む機会として始まったWSの受注も毎月安定して100台超えるようになりました。最近では作業に携わる利用者さんの入れ替わりがありながらも職員とともに納期に間に合うように計画しながら日々汗を流しながら頑張っています。請負部門ではここ2年で作業の種類が決まってきて、安定して入ってくる作業については、準備から片付けまで利用者さん自身で行えるように部材の場所を固定し、視覚的にわかりやすくしたことでそれぞれの方が自分の作業を自分で完結できるようになりました。そして、以前は全員の利用者さんに同じ工程に携わって頂いていたところは少し目線を変え、「自分に挑戦」の機会として検品など少し責任を感じる作業にも取り組んでいただくようになり、そこから新しい作業にも参加してみたい、日中活動する時間を延ばしてみたいと思っただけの方も増えたように感じています。そして「これやりましょうか?」と言う声が聞けたり、「代わりますよ。」と納品の積み込みなどを手伝ってくれる方がいたり、皆さんの気持ちにほっこりする毎日です。



日常、利用者さん同士や職員とのやりとりからも温かさを感じるさーくるですが、こうめ作業所時代から続く温かく居心地の良い雰囲気これから守りながら、それぞれの利用者さんが今の生活を続けられるよう、楽しみの幅を広げられるよう、前に進みたいと思う方のお手伝い出来るように一緒に考えていきたいと思っています。今年もたくさんの笑顔でどうぞよろしくお願ひいたします!

## ウォーターサーバーの作業を通して

さーくる 生活支援員 馬場 一夫

私はウォーターサーバーの担当になって半年になります。ウォーターサーバーって何?の状態でしたが仕事のできる方々がいたので苦にならないでいました。しかし、自分が仕事の指示や作業を教える立場になり大変さを実感するとともに、利用者さんとどう向き合うことが大切かを考えさせられます。個々に合うのか合わないのか、仕事で何を学んでもらうのか、学んだことをどこまで伸ばせるのか?活かせるための協力。サーバーが業者さんから納品され、メンテナンスを終えて業者さんに納品できるまでの工程、完成品になるまでを覚えるのは大変です。



利用者さんが明るく、楽しいまでに届かなくても少しでもいいから働きたいと思っもらえるような環境作りをすることが理想です。

現状は自分も一歩一歩ですが、サーバーメンバーが独り立ちして飛躍できる現実を掴るよ **GO!**

## チームキャリアアップ研修を受講して

すまいる サービス管理責任者 三浦 恵

今回、9月26・27日、2日間にわたって行われたチームリーダーキャリアアップ研修を受講する機会を得た。これは、近い将来チームリーダー等の役割を担う事が想定される中堅職員を対象に行われ、福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程の一環として行われている。70名ほどの参加者が、5~6名のグループに分かれ、グループワークを主に勧められた。私が所属したグループは、社協職員(男性)、児童

養護施設の保育士、知的・身体の障害者施設のサービス管理責任者、社協の居宅サービス事業所のケアマネージャーの5名で、研修全体の参加者を見ると、40代位の自分より若い人が多かったように思う。以下は、受講しての感想である。

今回の研修を受けることになった時、とても気が重かった。テキストには、経営のことなども書いてあって、キャリアアップと言ったらこの先管理者しかないじゃないかと思ったからだ。しかし、実際に研修を受けて、今自分がやっていることを大切に、それを実現するためにどう取り組むか考えていけばいいとわかって、ほっとした。グループメンバーの発表を聞いて、日々の業務に誠実に取り組んで、その延長線上にチームリーダーとしての役割があると感じた。良いサービスを提供するために必要なら、今より視野を広げて、経営や労務にも目を向けていけばいいと思うことだと思う。組織の運営管理が単独であるのではなく、良いサービスを提供することと密接に関わってこそ意味がある。



すまいるは組織として発展途上で、自分は管理的な業務を担ってはいないが、任されている利用者の処遇について充実させていくために、チームメンバー一人一人にも目を向けて、関わっていくことが求められていると感じた。日常すべての関わりが、OJT（On the Job Training 職務と通じての研修）であることを肝に銘じたい。そのために、基本的な知識技術を自分が磨くことはもちろんだが、それを伝える技術を身につける必要を感じた。また、基本的な業務についてマニュアルを整備していくことも大切だと思う。自分の責任で、変えられる業務は少ないが、カンファレンスの開催方法については、自分の裁量で改善ができる部分なので、開催時間や、メンバー、内容について見直していきたい。こうしたいと思っても、自分自身も含めて変わっていくには時間と労力が必要で、簡単に思った方向にはいかない。リーダーに大切なのは、あきらめないうで、夢を語り続けること、希望を持ち続けることではないかと思う。

定年まで指折り数えられる年になり、すまいるでの10年後は語れない年になった。少し気持ちが停滞していた今、この研修の機会を得、ふだんきちんと考えていなかったことを考え、言語化する機会を与えられたことを感謝している。

## 「まあ、いっかの精神」

すまいる京目 生活支援員 我妻 彩

今思えば、壮絶な4月でした。長女の保育園入園、次男の小学校入学…。そして育休明けはさーくるからすまいる京目に異動。家族の半分以上が新境地ということになります。不安とプレッシャーと色々と訳が分からず日々過ごしていたように思います。何とか乗り切ろう。仕事も家事も子育ても完璧にこなそうと気張っていました。

そして今はこう思います。そんなの無理に決まっている。自分は超人でもなければ優れた人でもないのだから。夕飯がスーパー手抜きな時も、長女を寝かしつけて一緒に寝てしまい、夜中に起きて残った家事をやっつけるなんて時もしばしばあります。

ですが、案外凝った料理よりも単純な料理の方が子供がうまいうまいと食べてくれたり、自分たちで時計をみて歯を磨き寝るようになったり、21時頃子供が寝るときに「ママ起きて！ほら、起きなくていいの？」と起こしてくれるようになったり…。物は考えようだなとつくづく思います。決して褒められた話ではありませんが、そんな時期もあっていいのではないのでしょうか。私は「まあ、いっか」と思うようにしています。

仕事でも育児でも、一人ですべてできるわけではなく、一人ですべてすることが必ずしもいいとは思いません。出来ないことは助けてもらう。助けてもらったから共有できる。共有できるから一緒に考えることができる。一人で抱えないことで相乗効果が生まれるなんて素晴らしいことだと思います。

一つ後悔していることは、長男と次男の宿題をみる時間がもてなかったことです。今年は宿題を見る時間を確保するためにOFFのスイッチを押すのを遅くすることが目標です。





吳秀三（くれしゅうぞう）は、今から百年前の時代に東京大学医学部精神科の教授として、異例の社会的取り組みを進めた先達者である。彼は精神疾患の人々が「座敷牢」に押し込まれる実情を憂い、その解決のために奔走した。その土台となった報告書『精神病患者私宅監置ノ実況及び其統計的觀察』を一九一八年に提起し、多方面へ働きかけた。

それから一世紀が過ぎた今、精神障害者の問題はどうかっているのだろうか？

## 映画「夜明け前」を鑑賞して

すまいる京目 生活支援員 河野 ちづ子

今から約100年前に精神障害者の救済に尽力された方の映画でした。100年前と100年後の今とはさほど（精神医療が）進歩したとは思えませんでした。

すまいる京目 職業指導員 五十嵐 典子

今から100年前、差別的な国家だった日本の精神障害者の実状を憂い、その解決のために奔走した吳修三という人を知り、その勇気と努力に驚きました。その精神は引き継がれ活動が脈々と続いている事に感動しました。

すまいる京目 就労支援員 倉澤 照子

この映画を見て、以前身体障害者の人（現在60代後半）から、子供の頃、自分は寮生活をして姉は家族と生活していた。何で自分は家族と過ごせないのか？姉のことが羨ましかった。年を重ねても親や姉に対してわだかまりがあると話していたことを思い出しました。身体障害の人以上に精神障害者に対する風当たりは大きかったと思います。吳先生の時代から100年たっても同じようなことが続いている事に改めてこれで良いのか・・・と考える必要があると思いました。

入院で障害者や高齢者も病院側の思うようにならないと当たり前のように「拘束」されます。自分が高齢になり入院生活を送る事になった時、拘束され思うように動けなくなるのかなと思うと、もっと身近な問題として考えていかないといけないと思いました。

さーくる 職業指導員 日向野 浩子

今回の映画で、吳秀三を初めて知った。100年前、精神病に有効な治療法がなかった時代とはいえ、私宅監置というひどい処遇を受けていた事実には衝撃を受けた。世間の人、病気に対しての無知や偏見が

あったのだろう。

薬物治療が進んだ現在も入院という形で隔離と収容を基本としている現状がある。日本を除く先進諸国の平均在院日数約 18 日、それに対して日本は 284 日、在院患者の約 3 分の 2 にあたる 20 万人が一年以上の長期入院であるという。

呉秀三の「我が国十何万の精神病患者は実にこの病を受けたるの外に、この国に生まれたるの不幸を重ねるものというべし」この言葉が胸を打つのは、現在も障害者の方たちの取り巻く環境が変わっていないからではないのだろうか。精神障害者が正しく理解され「障害者に対しての差別の目」が人々からなくなっていくことが大切なのではないかと感じた。そしてそれは、障害があるなしにかかわらず、お互いを認め合い、尊重しあうことがすべての人々が生きやすい社会になるのではないかと思う。

カサ・セレゾ 生活支援員・世話人 齊藤 順子

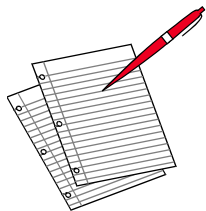
「この国に生まれたる不幸」言葉に出来ない程の、思い衝撃でした。今も昔も、病を受けてしまった人の家族やかかわる人達は「これで良いのか」と言うぎもんを感じていた人が少なくなかったのではないのでしょうか。

100 年前によく呉秀三さんが疑問をどう解決したらよいのか、立ち上がり、外国の状況を自ら知り、日本で行動に移した。

先人の苦労は並大抵では無かったでしょう。その努力をもっと具体的にドラマの様に小学生でも分かる様にして頂きたいと思いました。

映画の最後の方で「私達研究者でも見えない壁、そして偏見はある」と話していました。自分も壁を作り、偏見が有るのだということを思い知らされました。

どのように接したら良いか、わかりません。でも普通に接したい。普通に。人として。



すまいる京目 職業指導員 塚越 幹雄

実際に牢屋に監置されている映像を見て、言いようのない恐怖と悲しみを感じた。なぜに、当時の精神病の人や精神障害者は、あのような仕打ちを受けたのだろうか。映画の中の座敷牢には布団は無く、中にいたほとんどの人が裸でいた。あの人たちは、誰かに危害を加えたのだろうか？ だから、あのような仕打ちを受けていたのだろうか？ 座敷牢の中にいた人と、外にいた人は家族ではないのか？ 親子ではないのか？ 兄弟ではないのか？ 肉親ではないのか？ あの状態は治療といえるのか？ 当時の治療法はあんなやり方しか無かったのか？ そうだとしたらあの座敷牢での私宅監置の先には、何があると思っていたのか？ どう考えても完治はない。どう考えても症状は良くはならない。

自分に置き換えて考えてみた。自分があの座敷牢に入れられたらどうだろうか… 私は自分の息子をあの座敷牢に入れられるだろうか… 絶対に嫌だ！ 絶対に出来ない！

映画の中の私宅監置は精神病の人を隠すことだった。しかも、まるで犯罪者扱いでだ。あのような仕打ちは絶対にされてはいけない！ 決してあんなものは治療ではない。なのに戦後はあの治療とは言えない治療、監置する場所が病院になったなんて信じられない。本来治療をするはずの場所の病院でだ。

交流会の中で、日本も身体拘束をやめたが今は増えてきているとの話があった。私の勉強不足だろうか？ 身体拘束は精神病の有効な治療法の一つなのだろうか？ だからまた増えてきているのだろうか？ 答えは No だと思います。映画の中で、「呉先生は偏見のない人だった。」と言っていた。以前見たテレビで、「ドイツでは障害をその人の特徴としてみる。」と言っていた事を思い出した。

私これから一番大切にしていかなければならない事。それはこの考え方とその思いだという事をあらためて感じた。



## 魚釣りとおバーベキューのバスハイク

地域活動支援センターアロマ 施設長 信 澤 美恵子



当日（9月7日）は天気がいマイチでした。でもプライムの皆さんのパワーでなんのその、出発！初めて魚釣りをする人、また釣りの大好きな人、それぞれの思いを持ってマス池もまわりを囲みました。いざ始めると魚が触れないので釣り針から魚が外せずキャーキャー騒ぐ人、行くとマス池をにらめっこする人などなど、見ていて楽しかったです。魚はすぐに塩焼きにしてもらい、ちょっと魚の苦手な私もおいしくいただきました。バーベキューは各班に分かれて行い、お肉、野菜、焼きそばでお腹いっぱいになりました。班によって焼き方がまちまちで、焼く人の性格が出て、皆で焼きながら楽しさを感じた時間だったのではないのでしょうか？バス駐車場所とフィッシングプラザとの間には大きな橋があり、そこからは田んぼアートも見られてちょっとお得感ありでした。帰りは川場田園プラザへ寄り、ソフトクリームを食べたり、それぞれにおみやげを買ったり、みんな目がキラキラして各店を見て歩いていました。利用者25名、ボランティア2名、職員13名計40名の楽しい1日でした。



## 「ディズニーシー バスハイク」

さーくる 生活支援員 八 木 佳 織

さーくるは利用者6名、職員5名の計11名で参加しました。女性の利用者さんは何度かシーの行ったことがあるとのことでしたが、他の人は初めてのディズニーシー、そして参加メンバーの年齢も様々ということもあり、みんなはどんなアトラクションに乗り、どんな風景を見て…何を食べたいのかな…と考えました。希望を全て叶えてあげるのは難しいけれど、1つでも希望を叶えて、「ディズニーシーに来てよかった」と思えるような旅行にしたいと思いました。事前にガイドブックを見て、「これに乗ってみたい」「ショーを観てみたい」「ポップコーンも食べたい!!」と、職員と話したり、利用者さん同士で話している様子はとても楽しそうでした。

当日は朝早い集合でしたが、みんな遅れずにバスに乗ることができました。渋滞もなく、予定より早く到着しました。入園する時は風が強く、雨が降り出しましたが、集合写真を撮り終えた頃には少しずつ晴れ間が!! まず、リクエストが多かった、ベネツィアン・ゴンドラに全員で乗車しました。船上での挨拶は「Ciao」ここはイタリア?!と思わせるような街並みの中、運河を巡る旅に出ます。途中、「願いが叶う橋」があり、橋の下を通るとき、みんな目を閉じ、願い事をしていました。そのあとは、ダッフィーのショーを觀賞しながら食事のできるハンバーガー屋さんでお昼ご飯を食べました。その後、イケイケ絶叫組はタワーオブテラーへ！まったり組はビッグバンドビートという、ビッグバンドジャズの迫力あふれる演奏をバックに、本場のミュージシャンやタップダンサーたちが繰り広げるレビューショーを觀賞へ。その後も希望のアトラクションを1つ乗り、みんなでお土産を買いに行き、夕食を食べ、食後のジェラートも食べて…あっという間にそろそろ集合時間。他の事業所の話を知ると、ファストパスなどを駆使してアトラクションをたくさん乗っていたグループが多かったようですが、さーくるは飲み食い多めのゆったりコースでしたが、パーク内は坂も多く、移動距離も多かったため、みんな疲れちゃったね。今回の旅行はシーの半分くらいしか回れなかったため、また次の機会があれば、アラビアンコーストやマーメイドラグーンのほうへも足を延ばしてみたいと思いました。

体調面や金銭面で心配があり、今回一緒にディズニーシーに旅行に参加しなかった人もいますが、また行く機会があれば、参加してくださいね。やっぱり「夢の国」です、幸せな気持ちになれます。またみんなと楽しい思い出を作りたいです。

## 「ディズニーシーの一日」

シンシア 管理者 飯田 エミ子



大きな渋滞もなく現地に到着すると大きな雨粒が落ちてきたものの、すぐに止んで、夢の国での1日がスタートしました。

今回の参加者は絶叫系アトラクション好きが多く、皆涼しい顔で「楽しかった!」とか「全然平気!」と言っているその傍らで、同行した職員はぐったりとしていました。平日に関わらず、かなりの混雑でしたが、「ゲストアシス

タントカード」という魔法のカードのおかげで、長時間行列に並ぶことなく、効率よくアトラクションを楽しめました。

ディズニーでのお楽しみと言えば、そこでしか食べられない食べ物。ちょっと高めですが、ディズニーならではの工夫があります。私たちのグループで食べた和食セットの治部煮にはミッキーの形をした人参が入っていて、美味しく楽しく食べられました。

日帰りだったので、夜のパレードは見られなかったのですが、1日ディズニーシーを満喫し、楽しかった思い出と沢山のお土産を持って高崎に帰りました。

さて、魔法のカード「ゲストアシスタントカード」ですが、事前に電話で予約しておくカードを作ってくれて、当日いただけます。(手帳の提示は不要です)アトラクションの係員にカードを提示すると、時間を指定されますので、並んで待つ必要はありません。ちょっと並べば乗れるアトラクションはカードなしで、長い待ち時間が表示されているものはカードやファストパスを使うと効率よく楽しめますよ。お友達や家族でお出かけの際は活用してみてもいいかもしれません。(詳しくはホームページで確認を)

## 日光小旅行 … 2018年11月22日 …

さーくる サービス管理責任者 丸山 尚子

プライム秋の小旅行は、今年のあしががフラワーパークに続き、今年は大修理が行われて建築当時の色彩がよみがえった日光東照宮に行ってきました。日光東照宮に行くことになったのは、さーくるの利用者さんで「東照宮に行ってみよう!」とずっと言っていた方がいたからです。この時期の日光は雪が降ることもあるというので、使用する法人の車3台はスタッドレスタイヤを履き、参加される方にも真冬の服装をお願いしました。当日は、総勢19人(すまいる7名、さーくる9名、アロマ3名)で、すまいる京目を8時頃出発、途中草木ダム展望台で休憩し、日光に10時40分頃到着しました。参拝する前に、11時から「日光まるひで食堂」でお昼ご飯を食べました。この食堂



は、食事をすると参拝中も駐車場代がタダ!お土産も1割引!そして前日に注文し、全員がすぐ食べられるようにと準備してくださいました。日光名物の「ゆば丼ゆばそば定食」や「ゆばトマトラーメン」「かつ丼」や「山菜そば」等みなさんが選んだ思い思いのメニューを、おいしくいただき、12時に東照宮に向けて出発。輪王寺を右手に見ながら風情のある表参道を歩き、東照宮に到着、有名な「見ざる聞かざる言わざる」の三猿を見学した後、壮大な陽明門、鳴き龍で有名な薬師堂、本堂、眠り猫を見学。鳴き龍は案内のお坊さんが実際に拍子木をうち、龍の顔の下で打った時だけびーんと共鳴することが良く分かりました。その後、200段の石段を上る奥宮(家康の墓所)へ行きたい方とゆっくり買い物を楽しみたい方に分かれまして。最後にみなさんお土産を買って、14時半に日光を出発、17時ごろ京目に無事に到着しました。この日は雨も予想されていたのに、とうとう雨は降らず、帰りの草木ダム展望台では、夕日に照らされた紅葉と青空を眺めることができました。「東照宮に行きたい!」と言っていた利用者さんの感想は「すごかった!!」また来年も旅行しましょう。

## ・ ・ ・ 就職おめでとうございます ・ ・ ・

社会福祉法人プライムから就職された方々です

	就職先	仕事内容	雇用形態	採用日
1	マック食品 株式会社	油揚げ製造の補助	定時社員	H.30.6.1
2	株式会社銀星社	工場内軽作業・事務補助	パート	H.30.7.2
3	株式会社東洋食品	学校給食調理補助	パート	H.30.8.1
4	有限会社ハートマーケット	倉庫作業	契約社員	H.30.11.1
5	太陽誘電ケミカルテクノロジー	検査用サンプルの分別作業	パート	H.30.12.25
6	太陽誘電ケミカルテクノロジー	検査用サンプルの分別作業	パート	H.30.12.25

## 知っ得情報

**あみ(全国精神障害者地域生活協議会)発**

### ① 障害基礎年金、再審査で支給継続

日本年金機構が障害基礎年金の「障害の程度が軽い」として打ち切りを検討していた受給者 1010 人について再審査の結果、823 人の支給継続を決めたと発表した。既に打ち切られていた 1106 人の支給も再開し、計 1929 人を救済した。

打ち切りの結果の背景には昨年度審査業務が「都道府県単位」から「東京のセンターに一元化」されたことによるものがあり、審査にあたる医師が変わった影響で再審査を通知されたり、支給を打ち切られたりした受給者が続出していた。批判を受けて厚生労働省は今年 7 月、障害の程度が変わらない受給者については以前の更新時の判断を考慮する方針を示していた。同機構によると「平成 29 年度において 1 年後再審査した 20 歳前障害基礎年金受給者の方の審査結果」で 1010 人のうち 954 人が診断書を改めて提出し、障害の状態に変化がなかった 823 人は支給継続と判断され、状態が軽くなった 67 人は支給停止になった。残り 64 人は審査を継続している。「20 歳以後の障害による障害基礎年金の支給決定にかかる再審査の結果」では再審査が必要な方 1632 人のうち 1049 人が支給再開されることになった。

### ② 精神保健福祉手帳で、国内線の飛行機運賃が最大半額に

日本航空グループ(JAL)や全日本空輸(ANA)など国内航空 10 社と AIRDO,ソラシドエア等の計 6 社は国内線で障害者割引を精神障害者にも拡大することを発表、顔写真付きの精神保健福祉手帳の提示で最大半額(いずれも手帳を持つ本人と介護者 1 名が対象)となる。適用開始時期は会社ごとに違ったが 2019 年 1 月末からは、ほぼ全社で適用される。

.....これからはバスや電車(新幹線)はなく飛行機を使った旅行ができるかも!!!

### ③ 精神保健福祉手帳がカードに

「精神保健福祉手帳は財布に入れるには大きくて、持ちにくい。ポケットに入れるのは落としそうで嫌だし、提示するときのカバーの色も派手だし出しにくい。」とよくささやかれる。

来年度から「精神保健福祉手帳」と「身体障害者手帳」が、希望者にはカードで交付されるようになる。紙製より耐久性があり、持ち運び便利なカードへの変更ということだ。カードを希望しなければこれまで通り紙製の手帳を交付することになる。今後、厚生労働省が、社会保障審議会の部会の了承を得た上で、政令を改正する予定だ。



..日替わりお弁当..  
注文・配達承ります

すまいる京目弁当事業部

注文専用ダイヤル

027(350)1555

注文専用 FAX

027(350)1556

## ありがとうメッセージ

2018年も多くの皆さまからご寄付やご厚情をいただきました。

- イオン高崎・イオンモール高崎様  
さーくる(23,000円) すまいる(京目21,100円、柴崎21,500円)  
※クリスマス会のプレゼント等を購入しました。
- 生命保険協会群馬県協会様 200,000円  
※グループホームのダイニングセットを購入しました。
- イオンクレジット様  
※ダイソンの掃除機をいただきました。
- NPO法人三松会(フードバンク)
- 個人のご寄付 合計 1,006,160円  
※グループホームの備品を購入しました。
- 菊池様 クリスマスの飾りのご寄付  
※毎年ありがとうございます。
- 物品のご寄付  
※たくさんの方より、グループホーム設立時の調度品から、各施設への食材をいただきました。



## 編集後記

あと4ヶ月で、平成が終わろうとしています。次は自分と同じ年に生まれた皇太子殿下が天皇になるかと思うと時の流れを感じます。中学3年の夏、福島県の吾妻連峰を縦走しているとき、頂上で学習院のご学友との登山中の、皇太子さまに遭いました。彼らのスマートないでたちと品の良さは、ドロドロのジャージ姿の私達とは雲泥の差で、子どもながら格差を感じました。

25年程前のこと、皇太子さまの学習院幼稚舎からのご学友と同じ社宅になりました。奥様はアメリカの方で子供が同級生だったので、朝早くから娘さんは人参とピーナッツバター、クラッカーを片手にわが家へ遊びにきました。日本人は社宅を改造するなんて考えもありませんが、彼らは大胆にも改造し、クリスマスには本物の2mもあるもみの木をリビングの真ん中飾り、室内で大型犬を飼っていました。御主人は夕方には一度家に帰り家族と夕食とり会社にもどって仕事していました。その時は文化や価値観の違いを感じたものです。あれから時が経ち、人々はスマートな服に身をまとい、大胆だと思っていたリノベーションは当たり前、交通事情も働き方も、私たちの生活も様変わりしました。

次の時代も、文化や価値観、生活は変わっていくことでしょう。これからの若い方々が暮らしやすい社会であってほしいと心から願っています。同時に「温故知新」を思い、いつの時代にも変わらぬ大切なものを大事にしていきたいものです。

／発行  
社会福祉法人 プライム

〒370-0011  
群馬県高崎市京目町201-2  
障害福祉サービス事業所  
すまいる京目内

TEL 027-381-6171  
FAX 027-381-6172

E-mail

smile-kyome@major.ocn.ne.jp

発行責任者 山本美紀子

発行日 平成31年1月7日